

働き方改革推進プラン実践例

学校づくり

北総教育事務所

千葉県の目標

- 月当たり正規の勤務時間を80時間超えて在校する教職員を**10%**
- 「子供と向き合う時間を確保できている教職員の割合」**70%以上**
- 「勤務時間を意識して勤務することができる教職員の割合」**80%以上**

- 部活動の適切な活動日、休養日設定
- 部活動指導の複数配置
- 週1日の定時退勤日設定
- 長期休業日の定時退勤の奨励
- 学校閉庁日の設定

- PDCAサイクルの構築
- 会議短縮ホワイトボード化
- スクラップ&ビルドのルール化
- 内容が重複している各種たよりの一本化
- 保護者連絡体制の見直し

- 行事、会議の見直し
- 校外学習の回数の削減
- 職員会議と企画委員会の一本化
- 内容が重複している各種たよりの一本化

教員の意識改革

- 勤務時間の客観的把握
- 記念日の年休取得
- 目標申告視点盛り込み
- 在校時間の職員会議での見える化
- 働き方改革の校内研修の実施

校長の役割

- ・率先した行動
- ・周知徹底と意識改革
- ・保護者地域の理解推進
- ・職員の健康状況把握

チーム学校 学校支援

- 地域ボランティアとの連絡調整
- 保護者へ適切な説明
- 登下校指導の協力
- 実態把握に基づく分掌の適正化

- 家庭科裁縫や生活科等の校外活動の保護者協力依頼

働き方改革

事務効率化

- ・電子化
- ・金銭の口座引き落とし
- ・恒例行事の行程表の作成
- ・職員室10分一斉清掃
- ・収納マップの作製
- ・職員会議等のペーパーレス化

- ・書類管理の機能化の促進

第1回「教員等の出退勤時刻調査結果」(令和元年6月1日～6月30日)

- 月当たりの正規の勤務時間を80時間を超える者の割合
- ・小学校(12.1%)
- ・中学校(37.9%)
- ・義務教育学校(33.3%)
- ・高等学校(20.6%)

* 参考文献【○学校における働き方改革推進プラン(千葉県教育委員会) ○中学校教育フォーラム2019年度秋号(久我直人)】

* 実践例では、黒字は「学校における働き方改革推進プラン」の学校の取組チェックリストのもの、赤字は聞き取りの中での実践事例を示しています。